慶應義塾 医学部新聞
発行所
三四会医学部新聞編集室
〒160―8582
東京都新宿区信濃町35
電話(3353)1211　内線64996
会員については会費に購読料が含まれる
発行人　武田　純三
毎月　1回20日発行

信濃町駅前・各種診療
慶應義塾大学病院
●外来診療時間＝午前8時40分～午後12時　午後1時～午後4時（特殊外来）
●電話＝03（3353）1211（大代表）

日本医療研究開発機構のミッションと展望

日本医療研究開発機構理事長
末松　誠（医化62回）

医学生として6年間、内科医として8年間、留学を挟んで医化学教室に移籍してから22年の間、慶應義塾にお世話になりました。創立90年の年に医学部長を拝命してからの7年半、信濃町キャンパスの皆様には本当にお世話になり感謝の言葉が見つかりません。3月26日午後の「医学部長退任講義」には東校舎講堂が満員になるほどの教職員、学生諸君にお集まりいただき、これも一生の思い出になりました。この原稿の内容はその際の後半の内容です。小生はこの4月からの新しい責務をしっかりと施策に反映させ、「研究を研究で終わらせないで、医療に反映させる。新しい医療から新しい基礎研究が生まれる」といった基礎・臨床一体型研究を通じて日本の医療研究が活性化されるように全力を注ぎたいと思います。

地球レベルの人口爆発、先進諸国のみならず全世界で超高齢化が進み、医療は急性期疾患のケアだけではなくがんや糖尿病などの多数の生活習慣病の対策を「医療費の爆発的増大を抑えながら」施行していかなければなりません。超高齢化によりがんや認知症などを発症する割合が増え、免疫機能の低下・感染症の合併などで複合的な原因で命を落とされる方々が多くなっています。また、人々の交流が世界規模で広がることにより、エボラ出血熱やデング熱といった地域の感染症が世界的に流行する恐れがあり、その対策が進められています。また、原因解明が進まず、十分な治療法がない方、あるいは診断すらできないような病気のために苦しんでいる方が、まだまだ世界中におられることも、ITCの普及により広く認識されつつあります。病気が個人や社会に及ぼす影響には「命を失うこと」以外に「生活に支障が生じる」「社会活動度が低下する」などがあります。障害調整生命年（DALY）という指標による分析によれば、我が国の疾患群では精神神経疾患のインパクトは悪性腫瘍や心血管病を抜いて1位に位置されています。少子超高齢化を抱える我が国においては、研究を研究で終わらず、その成果が着実に事業として展開できることが必要です。

このような状況の中、我が国の研究開発を通じて医療の向上を目指す新たな組織として、日本医療研究開発機構（AMED）がスタートしました。新機構の目的は、生命を延ばすとともに生活や人生の質の向上をも含めた成果をいち早く人々に届けられる医療研究開発の実現です。生命・生活・人生の「3つのLIFE」の具現化を目指す開発研究を応援することによって、研究の成果を患者さんに届ける速度を最大化することを目指します。

組織

平成27年度はこれまで国家プロジェクトとして進めていた9つの柱をそのまま3省から管理を継承する形で機構の活動がスタートしました。これらの9つのプロジェクトのうち7つを占めるのが戦略推進部です。「医薬品」「再生医療」「がん」「脳と心」「難病」「感染症」「研究企画」がそれらに含まれます。その他、産学連携部が担う「医療機器開発」、バイオバンクジャパンや東北メディカルメガバンクなどのバイオバンクを利活用するプロジェクトを推進する「バイオバンク事業部」が「横糸組織」として機能する方針です（図）。これらのプロジェクトはAMEDの基幹プロジェクトとして決定し、すでに政府による中長期目標なども設定されています。それぞれのプロジェクトにおいてAMEDは基礎研究から実用化までのシームレスな支援を目指します。これまでも2つ以上の省が合同で国のミッションを果たすべく新しい独立行政法人が構築された例はありませんでした。AMEDでは、これまでどおり文科省・厚労省・経産省がそれぞれ国に予算請求するところまでは変わりませんが、加えて、その予算を一元化して管理するというのがその特徴です。省庁からの出向の方々の比率は文部科学省・厚生労働省・経済産業省＝5：4：1の割合ですが、各部局に必ず文部科学省・厚生労働省からの事務官の方々がミックスして配置され、さらに各大学からの出向で全国から来ていただいている医学部・薬学部出身者、さらにはJSTやNEDOで柔軟な研究開発費の管理を経験してきた方々が配置されています。いままでの独立行政法人にも複数の省庁からの出向者の方々で構成されている組織はありましたが、部局の細部にわたって複数の省庁出身者の方々が配置されているのは新法人の特徴です。「現行の9プロジェクトの円滑な事業継承」がこの4月の私たち機構の最大のミッションではありましたが、すでに順次、各プロジェクトでprogram director（PD）、その傘下のprogram supervisor(PS)、Program officer(PO)の先生が中心になり、各研究課との綿密な打ち合わせ会議が、上記の複数の省庁からの事務官や若手の新規参入スタッフとともに毎日のように実施され、平成27年度以降のAMEDとしての特色のある課題管理・運営について検討が始まっています。

【次号にてさらに詳しくAMEDを紹介】

図　AMEDの組織におけるマトリクス構造の活用：縦横連携の強化

慶應医学のさらなる発展を

―医学研究科委員長の就任に際して―

先端医科学研究所　細胞情報研究部門　河上　裕（59回）

この度、岡野栄之医学部長のご推薦と医学研究科委員会の承認により、5月から医学研究科委員長に就任しました。これまで慶應大内科（血液）と微生物学教室、NIHなど米国3機関での12年間の研究に加えて、文科省大学院GP代表者として薬学研究科連携で修士課程教育体制の構築、文科省21世紀COEでは理工学研究科連携がん研究拠点の代表者として博士課程教育研究体制の構築、現在、文科省がんプロ養成代表者として、博士修士課程での関東甲信越10大学15研究科からなるがん医療人材養成体制の構築で、それぞれ大学院の研究・教育・診療に関わり、医学研究科の課題を明らかにして、その解決に努めてきました。また日本医学会連合研究倫理委員会や日本癌学会や免疫学会利益相反委員会では委員長として、大学院教育の基礎となる研究倫理や臨床研究実施法について検討してきました。これらの経験を活かしたいと思います。

大学の価値は、学問として新しいものを生み出し社会に貢献することです。臨床応用などを全く考えない科学的興味だけで進められた研究で得られた成果からも、その科学的な価値だけでなく、優れた創薬につながることはいくらでもありますし、逆に、今では各種新技術を駆使することにより、臨床検体を用いた研究から新たな科学的発見や新規シーズを生み出すことも可能です。ヒトと動物では異なる点も多く、ヒト疾患には多様性があり、臨床試験等を介してヒトの研究を推進させることは医学研究科の特色を活かす点で重要です。

慶應義塾大学医学研究科は、北里柴三郎初代医学部長の「基礎医学と臨床医学の連携を緊密にし、学内は融合して一家族の如く」の言葉通りに、日本の医学部の中で最も基礎教室と臨床教室の連携に優れた大学の一つであると思います。今、さらに生命科学・基礎医学・臨床医学とその連携研究を発展させて、その中で、将来世界で活躍できる大学院生を養成することが求められています。グルーバルに優秀な大学院生を獲得して養成するための資金確保、スペース確保、研究教育環境整備、国内外研究医療機関との連携体制構築など、この機会に一度、医学研究科の課題を短期・中期・長期的課題として整理し直し、医学研究科の皆様の力を集結して、具体的な対策を立てて一つ一つ実行していきたいと思います。医学研究科を少人数で動かすことは不可能です。皆様と一緒に慶應医学のさらなる発展を目指したいと思います。

募金の声

ご寄付のお願い。募金、寄付、それと税金

三四会山形県支部長　武田　和夫（40回）

募金、寄付、税金と並べると、まるで落語の三題噺のようである。仕事をしようと思うとお金がかかる、そのお金をどこから持ってくるか、それが問題である。

勿論、その事業の費用を手持資金で賄えれば問題はないが、額が大きくなると金融機関から借り入れをする、借りたら返済しなければならない。普通の商売なら、人件費、原材料費、販売経費などを引いた残りの利益から、銀行に借金を返済する。始めから利益を見込めないような事業なら、募金活動をして広く寄付を募らなければならない。募金といい寄付というが、お金を貰う側と出す方からとの違いである。ふるさと納税に見返りを期待した人でも、赤い羽根の共同募金の箱にお金を入れた人は、見返りを求めず寄付をしたと思う。

私は今、山形三田会の会長で、塾生に奨学金を支給しキャンパスの整備にお金を出すための寄付をお願いする、慶應義塾維持会という団体の常任委員であり、また日本に留学している大学生や大学院生を援助するための寄付をしてくれた。米山記念奨学会にも一個人で1億円を寄付してくださった例もある。しかし一般的には大勢の方から、善意の寄付を集めて大きな基金とする。だが自分の口腹のためにはお金を出しても、使い道の明確でないものには出したくない。しかし額が少なければ赤い羽根のように抵抗感が無い。ある程度の金額の寄付を頂くには、出しやすくすることと、何のためにお金を集めるのか、どんなところに使われているか、説明と報告を小まめにすることが肝心である。きちんと説明をする、さらに寄付して頂くために手間ひまを少なくする工夫が必要である。郵便局に行かずともコンビニで済ませられるようにする、また始めから拒絶反応が出そうな金額を提示せず、これならば可能かなというものをお願いする。一括支払いは無理でも分割で1回の支払いが小額ならと分割でお願いする。携帯電話の支払いが、月5千円程度が1万円になっても、仕方がないかと納得するだろう。友達と飲み屋に行けば平気で数千円を消費する。月5千円なら出せない額ではない、12ヵ月なら6万円である、出来ればこれを数年間銀行口座から自動引去りで持続してもらう。

今は医学部百周年記念の新病棟建設が目標であるが、その中で学ぶ優秀な人材を将来も得るために、スカラーシップにも是非ご寄付をお願いしたい。勿論、塾への寄付は寄付控除の対象で節税にもなる。年金生活者であってもガラ携に使う感覚で、後輩のために出せる範囲で寄付をお願いしたい。

第57回東医体　総合優勝2連覇達成

夏季優勝の勢いのままに

慶應が第57回東医体の総合優勝を勝ち取った。3月6日～13日のスキー競技を最後にして第57回東日本医科学生体育大会の全日程が終了し、本塾の総合優勝が決定した。

東医体は、各競技、順位に応じたポイントが上位の大学に付与され、その合計点で総合優勝校を争うシステムとなっている。夏季部門を終えて2位以下に大きく差をつけていた慶應は、冬季部門アイスホッケー競技でも点数を獲得して手堅く1位の座を守り切った。

左の表からお分かりいただけるように、様々な部活がポイントを獲得し、得点を積み重ねていけるところに慶應の強さがある。競技は違えど、〝総合優勝〟という一つの目標に向けて本塾全員が一致団結しているというわけだ。

第58回東医体での3連覇に向けて既に走り出している皆に、大きなエールを送りたい。

第57回東医体全競技の結果

種目	1位	2位	3位
陸上（男子）	筑波	慶應	医歯
陸上（女子）	秋田	慶應	東大
硬式野球	東医	聖マ	獨協
準硬式野球	群馬	福島	東北
テニス（男子）	北里	信州	日大
テニス（女子）	東医	杏林	筑波
ソフトテニス（男子）	新潟	山梨	福島
ソフトテニス（女子）	秋田	群馬	獨協
卓球（男子）	山形	北大	順天
卓球（女子）	秋田	順天	帝京
バレーボール（男子）	旭川	信州	順天
バレーボール（女子）	日医	群馬	慶應
バドミントン（男子）	旭川	筑波	千葉・帝京
バドミントン（女子）	札幌	秋田	女子・聖マ
サッカー	千葉	筑波	順天
バスケットボール（男子）	慶應	東邦	北大
バスケットボール（女子）	聖マ	日大	昭和
柔道	東海	埼玉	獨協
剣道（男子）	秋田	順天	自治
剣道（女子）	群馬	東大	順天
弓道	信州	新潟	秋田
空手道（男子）	慶應・札幌	一	自治
空手道（女子）	新潟	埼玉	札幌
水泳（男子）	慶應	東北	群馬
水泳（女子）	女子	筑波	慶應
ヨット	東北	慶應	横市
ボート	慶應	杏林	山梨
馬術	昭和	山梨	信州
ハンドボール	順天	旭川	福島
ゴルフ（男子）	群馬	慈恵	聖マ
ゴルフ（女子）	北里	杏林	慶應
ラグビー	信州	獨協	日大
スキー（男子）	北大	旭川	札医
スキー（女子）	旭川	弘前	秋田
アイスホッケー	筑波	札医	慶應

閉会式にて、優勝杯と優勝旗を手に

末松誠医学部長　退任講義を聴講して

平成27年4月1日より独立行政法人「日本医療研究開発機構」（AMED）の初代理事長に就任された末松誠医学部長の退任講義が、3月26日午後4時半より、東校舎にて行われた。講義開始30分前から教職員、学生はもとより、事務職員や一般の方々が続々と講堂に詰めかけ、257席の講堂は見る見るうちにいっぱいになり、補助のパイプ椅子まで動員されることとなった。司会は次期医学部長である岡野栄之教授が務められ、学生時代のエピソードを含めて末松先生のこれまでの歩みについて紹介された。

大きな拍手に迎えられて教壇に立たれた末松先生は、まず医化学教室の歴史について述べられた。そして、医学部卒業後は消化器内科医としてそのキャリアをスタートされながら、どのような経緯と動機で基礎の研究者へとシフトしていったかについて、恩師・土屋雅春先生をはじめ多くの先生方との逸話を交え紹介された。末松先生は「ガスバイオロジー」という新しい研究領域を拓かれ、それを「メタボロミクス」という最先端の技術で裏打ちしてこられたことは誰もが知るところではあるが、実はこれらのキーワードは、臨床で生まれた疑問に対して基礎研究で回答を出すという一貫した姿勢の中から生まれてきたものであることが講義を拝聴してよく理解できた。Physician scientistを目指す若者たちにとって、極めてインパクトのある内容であった。

講義の後半では、医学部長に就任されてから行われた改革についてお話された。無給医の解消、助教の有期化、女性医師復帰システムの実現、スタッフ枠を増員するための新制度の導入など、次々に新しい方策をあたかも複雑な代謝経路を見出すかの如く打ち出してこられたことが紹介された。末松先生の科学者としての能力が、そのまま行政に活かされていたことがよく分かった。

最後にAMED理事長に就任されてからの抱負について熱く語られた。〝3つのLIFE（生命・生活・人生）〟を意識した運営を行い、新しい医薬品、医療機器の自国開発速度を最大化させ、日本が「生みの親」だけでなく「育ての親」となれるように支援を行いたいと述べられた。そして情報とリソースの共有を進めて、個の強みを全体の強みに発展させるという、我が国にこれまで欠如していた部分に楔を打ち込もうとしておられることが伝わってきた。

福澤先生が残された名言「進まざる者は必ず退き、退ざる者は必ず進む」が自身の科学者として、そして組織のリーダーとして進まれるための根本的な支えになったことや、静かに講義を終えられた。末松先生のこれまでのご貢献に対する感謝の気持ちと、これからのご活躍に対する期待を込めた長い拍手が、いつまでも鳴りやまなかった。

（医学部長補佐　佐谷秀行　60相当）

第106回慶應義塾大学医学部生涯教育研修セミナー

日　時　平成27年7月11日（土）午後3：00～6：00
場　所　ハイアットリージェンシー東京　B1階『桃山』
開会の辞　生涯教育研修セミナー委員会委員長　鈴木　則宏
挨　拶　医学部長　岡野　栄之
講　演　会「肺がんにならない、肺がんを見つける、肺がんを治す：肺がん治療の最前線」
モデレーター　淺村　尚生（慶應義塾大学医学部外科学（呼吸器）教授）

1「肺がん画像診断の基礎と現代の肺がん根治手術の実際」
淺村　尚生（慶應義塾大学医学部外科学（呼吸器）教授）

2「進化する肺がん薬物療法の現状とこれから」
副島　研造（慶應義塾大学医学部内科学（呼吸器）准教授）

3「最新の放射線治療と肺がん」
関　智史（慶應義塾大学医学部放射線科学（治療）専任講師）

参加費　無料

日医生涯教育制度参加証交付
3単位　（カリキュラムコード：2、42、45、46）

お問い合せ　慶應義塾大学信濃町キャンパス総務課内
生涯教育研修セミナー事務局
Tel：03-5363-3611　E-mail：med-somu-3@adst.keio.ac.jp

セミナー終了後に意見交換会を準備しておりますので、ご臨席ください。
次回第107回開催予定：平成27年10月10日

慶應義塾大学病院　各種お問い合わせ先

・初診予約（午前9時～午後7時、第2・4・5土曜日は午後5時まで）

三四会ホットライン
TEL 03-3353-3034（ミオサンシ）

医療機関用
TEL 03-3353-1257　FAX 03-5843-6167
WEB「病院ホームページ」→「お問い合わせ一覧」→「医療機関の方へ」→WEB申し込み：初診外来予約フォーム（24時間申込）
→医療機関からの初診予約申込フォーム
・検査予約（午前8時30分～午後5時）
PET/CT…TEL 03-5843-6165
SPECT …TEL 03-5843-7071
・予防医療センター：人間ドック（午前8時30分～午後5時）
TEL 03-6910-3533

平成27年度三四会評議員会開催のお知らせ

会則20条に則り、次のように開催します。

記

日時：平成27年6月13日（金）午後3時～5時
場所：2号館11階　大会議室

本評議員会は総会に代わるもので、（会則18条）、本会の最高意思決定機関です。
評議員各位のご出席をお願いいたします。
なお、閉会後、情報交換会を開催します。

三四会長　武田　純三

北里記念式の挙行について

本年は初代本学部長北里柴三郎先生の84年祭にあたり、医学部と三四会との共催によって下記により北里記念式を執り行うことになりました。三四会の皆様方のご列席の程をお願い申し上げます。

記

日　時　6月12日（金）午後1時
会　場　北里講堂

医学部長　岡野　栄之
三四会長　武田　純三

鐘鳴知来

静岡赤十字病院での2年間の初期臨床研修を終えて、4月から整形外科学教室に入局し、慶應義塾大学病院に帰ってきた。学生時代に比べ新病院の建設は着実に進んでおり、医学部創立100周年と新病院棟建築完成が徐々に近づいてきていることを日々肌で感じる。

医学部5年生の時、医学部体育会委員長を務め、各部活での新入生歓迎会に携わっていた。その時に入学してきた新入生がこの4月から5年生になり、臨床実習（ポリクリ）が始まっている。白衣を着て院内を歩く彼らの姿を見ると、月日が経つのを早く感じると共に、ポリクリが整形外科に興味を持つきっかけとなったことを思い出す。また、教わっていた側から、教える側に変わったことは、身の引き締まる思いであり、「半学半教」の精神を大切にしていきたい。

新入局の学年は、初期臨床研修制度が始まり、丁度第10期にあたる学年である。10年が経ったことで、各病院での研修制度も整い、私自身も大変有意義な2年間を過ごさせて頂いた。初期臨床研修制度が始まる以前は、大学卒業と共に各科に入局していたことは先輩方からよく伺っていた。現行の制度に賛否両論はあると思うが、様々な科をローテーションすることで、多くの先生方や患者さんとの出会いがあった。その出会いの積み重ねは、私にとって大きな財産となっている。また、各診療科の連携の重要性を、それぞれの科の視点から見て感じることが出来た。

現場では、学生時代には文面でしか知ることのなかった、超高齢化の波が確実に押し寄せてきていることも実感した。世界に先駆けて高齢化の進む日本においては、慶應義塾の精神である「自我作古（我より古を作す）」、即ち、前人未踏の新しい分野に挑戦し、困難や試練が待ち受けていても、それに耐えて開拓に当たるという使命感を持って精進していきたい。

（整形外科学教室助教　梶川慶太　92回）